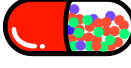


薬局通信

 第 126 号

大阪母子医療センター

新規試用または採用、採用区分が変更になった医薬品一覧

新規試用医薬品	新規院外専用医薬品
① ポプスカイン 0.5%注 ② ポプスカイン 0.25%注 ③ アプリスボ筋注用 ④ ラフチジン錠 10mg「サワイ」 ⑤ プレベナー20 水性懸濁注	該当なし
新規採用医薬品	
① ビカネイト輸液 500mL	
新規患者限定医薬品	
① エリスロシン錠 100mg ② トルバプタンOD錠 15 mg「オーツカ」 ③ パルモディア錠 0.1 mg ④ アプリスボ筋注用 ⑤ アガルシダーゼベータ BS 点滴静注 5mg/35mg 「JCR」 ⑥ シプロキササン錠 200 mg ⑦ マンジャロ皮下注 2.5 mgアテオス	

採用薬品の処方開始は、原則として**2024年9月2日(月)**からになります。

ただし、採用中止薬、切り替え等は院内在庫薬がなくなり次第実施となりますので開始日が異なる場合があります。

新規試用医薬品

① ポプスカイン 0.5%注 処方箋医薬品 / 劇薬

（丸石製薬株式会社）長時間作用性局所麻酔剤

一般名：レボブピバカイン塩酸塩注射剤

採用理由

同成分の別剤型が採用されているが、供給量が低下しているため。

効能効果

伝達麻酔

用法用量又は使用方法

通常、成人に 1 回 30mL（レボブピバカインとして 150mg）までを目標の神経あるいは神経叢近傍に投与する。複数の神経ブロックを必要とする場合でも、総量として 30mL（レボブピバカインとして 150mg）を超えないこと。

なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により適宜減量する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：443 円/管

② ポプスカイン 0.25%注 処方箋医薬品 / 劇薬

（丸石製薬株式会社）長時間作用性局所麻酔剤

一般名：レボブピバカイン塩酸塩注射剤

採用理由

同成分の別剤型が採用されているが、供給量が低下しているため。

効能効果

1) 術後鎮痛

2) 伝達麻酔

用法用量又は使用方法

<術後鎮痛>

手術終了時に、通常、成人に 6mL/時（レボブピバカインとして 15mg/時）を硬膜外腔に持続投与する。

なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により 4～8mL/時の範囲で適宜増減する。

<伝達麻酔>

通常、成人に 1 回 40mL（レボブピバカインとして 100mg）までを目標の神経あるいは神経叢近傍に投与する。複数の神経ブロックを必要とする場合でも、総量として 60mL（レボブピバカインとして 150mg）を超えないこと。

なお、期待する痛覚遮断域、手術部位、年齢、身長、体重、全身状態等により適宜減量する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：930 円/管

③ アブリスボ筋注用 処方箋医薬品 / 劇薬 / 生物由来製品

（ファイザー株式会社）ウイルスワクチン類

一般名：組換え RS ウイルスワクチン

採用理由

出生後早期の RS ウイルス感染症を予防するために、妊婦へ投与する組換え RS ウイルスワクチンが国内で承認されたため。

効能効果

- 1) 妊婦への能動免疫による新生児及び乳児における RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防。
- 2) 60 歳以上の者における RS ウイルスによる感染症の予防。

用法用量又は使用方法

＜妊婦への能動免疫による新生児及び乳児における RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防＞

1. 接種対象者・接種時期

本剤は妊娠 28～36 週の間接種することが望ましい。本剤の臨床試験において、妊娠 28～36 週に本剤を接種した場合に有効性がより高い傾向が認められている。

＜効能共通＞

2. 溶解後は溶液全量を採取し接種すること。

3. 同時接種

医師が必要と認めた場合には、他のワクチンと同時に接種することができる。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：自費

④ ラフチジン錠 10mg「サワイ」

（沢井製薬株式会社）H2 受容体拮抗剤

一般名：ラフチジン

採用理由

現在使用しているアルタット細粒の個包装製剤が販売中止となるため、服用しやすい錠剤での申請を希望する。

効能効果

- 1) 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎
- 2) 下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善

急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

3) 麻酔前投薬

用法用量又は使用方法

＜胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎＞

通常、成人にはラフチジンとして 1 回 10mg を 1 日 2 回（朝食後、夕食後または就寝前）経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

＜下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善、性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期＞

通常、成人にはラフチジンとして 1 回 10mg を 1 日 1 回（夕食後または就寝前）経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減する。

＜麻酔前投薬＞

通常、成人にはラフチジンとして 1 回 10mg を手術前日就寝前及び手術当日麻酔導入 2 時間前の 2 回経口投与する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：可

薬価：10.⁰²円/錠

⑤ プレベナー20 水性懸濁注 処方箋医薬品 / 劇薬 / 生物由来製品

（ファイザー株式会社）沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン

一般名：沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン

採用理由

従来の 13 価・15 価製剤よりも多くの血清型が含まれている。8 月販売予定、10 月には定期接種となる可能性もあるため。

効能効果

小児における肺炎球菌（血清型 1、3、4、5、6A、6B、7F、8、9V、10A、11A、12F、14、15B、18C、19A、19F、22F、23F 及び 33F）による侵襲性感染症の予防。

用法用量又は使用方法

・初回免疫

通常、1 回 0.5mL ずつを 3 回、いずれも 27 日間以上の間隔で皮下又は筋肉内に注射する。

・追加免疫

通常、3 回目接種から 60 日間以上の間隔をおいて、0.5mL を 1 回皮下又は筋肉内に注射する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：自費